

都会の異業種から新規農業参入を試みて (株式会社 農学館)

<法人の概要>

所在地：青森県上北郡六戸町大字犬落瀬字権現沢 54 番 24

設立：平成 23 年 10 月 14 日（六戸町認定農業者）

従業員数： 2 名、うち農業従事者 2 名

経営面積： 1.2ha 営農作物：トマト、葉物野菜、果樹、黒ニンニク加工、
トマトジュースなど

農業開始時期：平成 24 年 3 月



ハウス内のトマト収穫



シンディスイート（中玉）

<農業参入に至った経緯・動機>

当社は、法律を中心とした国家資格の取得（行政官、公務員も含む）を目指す学生、社会人、主婦などあらゆる方々を対象に関東近郊で受験指導と夢の実現を支援してきた会社です。

長年にわたり、そういった方々の自己実現の要求をサポートし、人々の生活を支える優秀な人材を育成することで社会に貢献してまいりましたが、他方で、人々の生命を支える最も基本的な産業である第一次産業の分野においても、人材育成の支援ができないか等から農業への関心が高まり、機会に恵まれ、青森県六戸町において農業を開始することとなった。

<農業参入することを決めてから営農開始まで>

農地の確保、作物の決定等は、基本社内での話し合いで決定し、営農をしてきましたが、農地を借りる際には、相続人が多数存在していたこと、さらに、日本各地に居住していたことから、所有者の合意を得るのに苦労しました。

また、国の耕作放棄地再生利用緊急対策交付金を活用しましたが、耕作放棄地は、一般的には日照の問題や耕作に適さない場合等が多く、復旧の整備に当たっては補助金等の活用を積極的にアドバイスしてくれる機関があれば、新規参入者にとっては非常に重要と思います。

<営農開始から現在まで>

主たる作物としてトマト（中玉トマト、4種類）を栽培し、今年の夏で3度目のハウス栽培になりますが、年々少しずつではあるが、収穫量も増加してきている。

また、生産したトマトを無駄なく活用するため、昨年度からはトマトジュースの加工も始めて、好評を得たことから今後安定して供給できるよう研究していきたい。栽培技術に関しては、地域の先輩農家の方々や種苗業者などからアドバイスをいただきながら、本やインターネット等の情報も利用しながら試行錯誤して対処している。

また、有機栽培と農薬不使用にこだわっているため、病害虫にはとりわけ気を使い、普及センターの相談員に相談に乗っていただき、栽培ポリシーを快く理解してもらい、適切なアドバイスをいただき大変助かりました。

販路については、市場と産地直売所、知人等を通して関東地区への出荷など、徐々に広がりつつあります。

地域とのつながりでは、地域の祭りその他諸行事への参加や、農業体験を通じた社会学習ということで、地元の中学生を招き、当社の農場で収穫・出荷準備の体験学習を実施しました。

<今後の農業経営の展開方向>

当面は、トマトを中心に展開を図るため、圃場面積を現在の3倍程度には広げることを検討しているが、予算と耕作適地との相関関係を考慮して判断していきたいと考えている。また安定した経営を図るため、農商工連携、6次産業化も取り入れる研究を進めていきたいと考えている。

<今後農業に参入しようとしている法人へのアドバイス>

とにかくアドバイザーとかコンサルとかの他人任せにしないことが大切だと思います。自分の足で歩き、目で確かめて農地を探す。地元の人達とも普段着のままて交流を始めていく。「ゆっくり急げ」だと思います。



耕作放棄地の復旧作業



地元中学生のトマト収穫体験